

# 長崎市第五次総合計画 基本構想（素案）パブリック・コメント一覧

期間：令和2年11月24日～令和2年12月23日

意見提出者 10名

No.	内容	回答欄
1	<p>基本構想（素案）は、どれも素晴らしい内容だと思います。長崎県内の雇用・所得の向上につながる施策が求められると思います。</p>	<p>雇用を確保し、所得を向上させていくことは、若い世代を中心とした働く世代に長崎市が選ばれるために、とても大事な視点と考えています。</p> <p>今後、基本計画を策定し、計画を推進していく中で、貴重なご意見として取り入れさせていただきます。</p>
2	<p>基本構想（素案）【まちづくりの方針B】の（1）長崎市の現状と課題、（2）長崎市がめざす方向、（3）主な取り組み方針から、「基本計画」、「実施計画」に進むこととなりますが、今回の素案では「長崎市がめざす都市像」がぼやけて見えにくくなっています。</p> <p>具体的には、「現状と課題」の認識において、現状の分析と現場の実情が十分に反映されていないために、行政（長崎市）として取り組むべき「方向」と「方針」が曖昧となり、総花的となっています。</p> <p>「方針」に『「もの」、「場所」の保存活用を図ります』と記載されていますが、原爆資料館等では、原爆資料の整理と分析が全く追いついていない現状があり、「被爆者がいない時代」に備えて、保存すべき資料と追加すべき資料を「何を何処にどのように残すべきか？」を十分に精査・検討する必要があります。</p> <p>語り継ぐ「ひと」の人材育成において、原爆関連資料が分散し、著作権の許認可に時間を要するなど、円滑な人材育成を図るうえで、原爆関連資料の整理・分析は大前提となり、その資料が更に積極的に活用されるものと考えます。</p> <p>「平和の文化」の協創を図るためには、世界のあらゆる人々</p>	<p>ご指摘の現状分析や現場の実情の反映については、基本計画を策定する際に参考にさせていただきたいと思います。</p> <p>一方で、「めざす都市像」が見えにくいとのご指摘については、2030年にめざす姿に近づくための「まちづくり方針」に至った背景や時代認識をしっかりと示す必要があると考えられますので、「まちづくりの方針B」の「長崎市の現状と課題」に次の文章を追加させていただきます。</p> <p><b>【追加】</b></p> <p>◇これまでは被爆者が先頭に立って取組みを進めてきたが、やがて訪れる被爆者がいない時代にも歩みを止めず前に進むためには、市民社会の力強い後押しが必要である。</p>

No.	内容	回答欄
	<p>が活用できる原爆関連資料とすべきです。</p> <p>その資料が、世界の軍縮教育（平和教育プログラムの構築）に活用され、世界中の若者をはじめ多くの方が平和（核兵器廃絶）を考える原爆関連資料となることをめざすべきです。</p> <p>RECNA 等で育成した若者人材や青少年ピースボランティア経験者が卒業後に長崎県外に転出してしまう現実があり、育成した人材が長崎市に残って仕事ができる仕組みづくりも重要となります。</p> <p>さらに、世界中の多くの方から「共感」を得られる平和（核兵器廃絶）に向けた「情報発信」が求められます。</p> <p>例えば、世界には未だに多くの紛争地帯があり、命の大切さを訴える共通の思いを拡げていくことで、平和（核兵器廃絶）に向けた情報発信に「共感」が得られるものと考えます。</p> <p>また、情報発信のデジタル化・オンライン化を進めるためにも「今、なすべきことが何か？」を考える上で、積極的な進展を図るべきです。</p> <p>そして、平和に取り組む国内外の様々な個人・団体とのネットワークを拡げていく必要があると考えます。</p> <p>例えば、スポーツ、文化芸能など、幅広い分野での平和の取り組みを金銭面で支援することが重要となり、長崎市に「平和の文化」が多種多様に芽生えることを期待しています。</p> <p>被爆 100 年後に、長崎市に「平和の文化」が花開くこと切に願うものです。</p>	

No.	内容	回答欄
3	<p>p.7の下から6行目と7行目、「人種、民族、国籍、性別、年齢、障害の有無、思想や宗教、性自認など」となっていますが、性自認と性別と別項目のものではなく、一般に「LGBTQ」と呼ばれる人達のみが「特別な」性自認でなく「男である」「女である」と自らを定義していることも性自認です。</p> <p>また、性自認のみを記載すると性指向をあえて記載しない（排除している）と読めてしまいます。</p> <p>よってSOGI（ソギ、Sexual Orientation &amp; Gender Identity、性的指向と性自認）という言葉に注釈をつけて使用する方が、より包括的に人々を掬いあげることができると思います。</p> <p>参考までに SOGI とは？LGBT の違い等についてわかりやすく書いてある URL を貼っておきます。  <a href="https://www.outjapan.co.jp/lgbtcolumn_news/out_proud/2019.html">https://www.outjapan.co.jp/lgbtcolumn_news/out_proud/2019.html</a></p> <p>ご検討をよろしくお願いいたします。</p>	<p>ご意見を頂いた個所については、国際的な交流のまちの姿として、多様性が尊重されていること、その多様性を例示する説明部分となっています。</p> <p>ご意見のとおり、一般的に生物学的性が自認する性と一致している一般的な性自認のほかに、それが異なる、あるいはわからないといった性的少数者の方もおられ、一般的な性自認以外が特別な性自認ではないということについては、長崎市においても、様々な性自認が当然に尊重されるべき個性であると考えています。</p> <p>あえて「性自認など」と分けたのは、これまで一般的に言われてきた「性別」とは別に表現することで、いかなる性自認及び性的指向も多様性の一つとして尊重しあうまちをめざすことを表現しようとしたものでしたが、「性自認のみを記載すると性（的）指向をあえて記載しない（排除している）と読めてしまいます」というご意見を真摯に受け止め、「など」に包含することなく、「<b>性自認や性的指向</b>」と併記することといたします。</p>
4	<p>1. 元英語教師として</p> <p>英語教育の特区となる。英語教育発生の地として、また唐通事・オランダ通詞が活躍した地として特色を出すべき。道案内くらいは全市民が英語のできるような所に。中・高生の教材として英文の観光ガイドブックや英語での長崎の歴史・文化・原爆を必修とすることも考えてほしい。</p>	<p>1について</p> <p>英語教育の特区となることについては、現段階では検討していませんが、「英語教育発生の地」であることはもちろん、「国際都市」を目指している長崎市として、海外からの旅行者だけでなく、海外からの居住者に対しても魅力的なまち、住みよいまちにしていくことは重要と考えています。</p> <p>「道案内」に関して、令和元年度から「あじさいグローバ</p>

No.	内容	回答欄
	<p>2. 元通訳案内士（英語）として</p> <p>コロナ前、クルーズ客の英語ガイドは、福岡等長崎以外の方が主だった。地元の通訳案内士の養成、研修の充実を図る。また、外国語の案内板の充実も急務。</p>	<p>ルリーダー研修会」を立ち上げ、市立全中学校から2名ずつの生徒が参加し、外国人（ALT）に市街地を案内したり魅力を話したりする場を設けています。また、国内外で活躍する地域人材の講話を聞く機会もあり、英語の有用性や海外を相手に仕事をするに親近感を感じさせる体験型研修会としてしています。このような取組を通して、道案内を英語でもやってみようと思うような市民を少しずつでも増やしていけたらと思っています。</p> <p>英語教育において長崎の歴史や文化・原爆を必修に、とのご意見については、必修という位置づけは難しいですが、英語の授業で学習する題材としたり、教科書の題材と関連づけて取り扱うことは、現在も行っているところです。また、ご意見を参考に、（一社）長崎国際観光コンベンション協会が作成した「長崎MAP」を学校等に紹介するなどして、英語でもてなせる長崎市を目指したいと思います。</p> <p>2について</p> <p>通訳案内士については、現在「長崎県通訳案内士協会」において、会員の資質向上や就業機会の確保などに取り組んでいます。また、通訳案内士に限定はしていませんが、観光地域づくり法人（DMO）である（一社）長崎国際観光コンベンション協会と民間事業者が連携して、顧客ニーズに対応した質の高いガイドを育成するため、有償ガイド育成事業を実施するなど受入環境の整備を行っています。</p>

No.	内容	回答欄
	<p>3 現在尺八講師・演奏家として 小中学校での音楽体験学習の回数が少なすぎる。ほとんどの児童生徒が和楽器に触れる事なく、卒業している。各学校、年に1回は実施してほしい。また、公会堂に替わる芸術文化ホールの完成を急ぎたい。</p>	<p>また、案内板については、さるく説明板は4カ国語、観光案内板は3カ国語に対応しており、今後新規で設置する場合についても、多言語対応予定です。</p> <p>3について 「小中学校での音楽体験学習」について、小学校6年間の音楽科の授業の中では、琴や和太鼓などの和楽器について学び、触れ合う機会が設けられており、中学校においては、和楽器の中の1種類以上について、実際に演奏する活動が行われています。</p> <p>また、新たな文化施設については、令和2年度から基本計画の策定に着手しており、その後基本設計・実施設計を進めていきますが、現市庁舎の解体工事及び跡地の埋蔵文化財調査後に、建設工事に着手することとなり、他都市のホールでも建設工事に2年程度を要しておりますので、完成は令和8年度になるものと考えています。</p> <p>しかしながら、公会堂廃止後、ブリックホールの予約が取りづらい状況が続くなど、市民の皆様には大変ご不便をおかけしておりますので、1日でも早く完成できるよう取り組んでいきます。</p>
5	<p>1 パブリック・コメントの形式は数値選択方式で第4次総合計画の結果評価を求め、第5次の目標の順番を見極める必要あり。</p>	<p>1について 長崎市第四次総合計画の評価については、長崎市総合計画審議会において毎年の進捗評価を行い、その結果はホームページにも掲載しているほか、令和2年度には総括評価を実施し、そ</p>

No.	内容	回答欄
	<p>2 人口減少他の対策は長崎版としての案も入れて作成ください。</p> <p>3 第5次総合計画のアイテム毎の数値目標が必要。</p>	<p>の内容は長崎市議会にも報告しています。</p> <p>第五次総合計画は、その結果を踏まえて策定していくこととしていますが、評価の過程が見えにくいことから頂いたご意見と受け止めており、今後、評価のあり方を検討する際には貴重なご意見として参考にさせていただきます。</p> <p>2について</p> <p>第五次総合計画基本構想においては、めざすまちの姿を少しでも具体的にイメージできるよう「めざす 2030 年の姿」を描き、8つのまちづくりの方針（A～H）を掲げて、その姿の実現を目指すこととしています。</p> <p>人口減少対策を含めた、長崎市における具体的な個別施策等については、今後、策定する基本計画や各個別計画の中で作成していきます。</p> <p>3について</p> <p>第五次総合計画は、今回のパブリック・コメントでご意見を頂いた基本構想（計画期間9年：令和4～12年度）のもとに、構想を達成するための各種施策を定める基本計画（前期4年：令和4～7年度、後期5年：令和8～12年度）と、具体的な事業計画となる実施計画（計画期間3年：ローリング方式により毎年見直し）を策定して推進していきます。</p> <p>ご意見をいただいた各種施策の数値目標は、これから策定する前期基本計画の中に設定します。前期基本計画については、</p>

No.	内容	回答欄
		令和3年の夏頃を目途に、別途パブリック・コメントを実施する予定ですので、ご確認を頂ければと思います。
6	<p>市民のため計画の作成誠にありがとうございます。 市民の立場より感じたことを意見させていただきます。</p> <p>本計画の冒頭 【めざす将来の都市像を「個性輝く世界都市」「希望あふれる人間都市」と掲げ、「魅力あふれるまち」「市民が暮らしやすいまち」の実現。】というビジョンを意識して読み進めてまいりました。</p> <p>①ビジョンと具体的な戦略の乖離 ビジョンの中ではコロナについても書かれている一方で具体策の部分ではまだまだ以前と同じような手法が書かれてあり、現状と乖離しているような印象を受けました。先行きが見えないからこそ、手法の部分は、そのときどき現状と照らし合わせ最も効果的な方法を検討し柔軟に計画を練り直すなど現状に即した対策を講じると言った方針を記載してはどうでしょうか。松ヶ枝に2隻の客船、新幹線、MICE、コロナ禍では無駄になってしまいそうな計画も記載されていて、利用されないのではないかと心配です。いろいろと事情はあると思うのですが。立ち止まれるものは立ち止まるのも市民のためのように思います。私の周りの人たちに意見を聞きましたら、「なぜ計画を改めないのだろう」「財政が赤字になるかも」と、市政と市民の心が離れていっているような実感です。効果的に税金を使ってビジョンを達成できるような政策をお願いします。</p>	<p>①ビジョンと具体的な戦略の乖離について 「世界都市」「人間都市」をめざし、第四次総合計画の期間を通じて、私たちが取り組んできたことは「次の時代の長崎のまちの基盤づくり」と整理しています。</p> <p>「次の時代のまちの基盤」とは、これから起こる様々な変化に対応しながら、暮らしやすく、活気と魅力のあるまちであり続けるための、インフラ（施設や道路など）や仕組み（制度など）のことを指しており、今後は、これらの基盤をより良い形で活かしていくことが重要であると考えています。</p> <p>一例として、ご意見の中にあつた松が枝国際観光船埠頭や新幹線、出島メッセ長崎（MICE施設）については、交流の活性化に資する基盤であり、コロナ禍で人々の往来が停滞している現状において、施設が有効に活用されないのではないかとご心配は十分に理解できます。</p> <p>しかし、中長期的なビジョンに立った場合、長崎のまちの発</p>

No.	内容	回答欄
	<p>②世界水準で個性輝くまちを目指すために</p> <p>世界水準で個性輝くまちをつくるため、多様性というところでジェンダー平等の部分にもうすこし言及してほしかったです。具体的に議員クォーター制の導入はどうでしょうか。政策を決定する市議会に女性が4人というのは少ない現状です。多様な意見を反映できるよう国に駆けて先進的な取り組みを希望します。</p>	<p>展にとって、「交流」というキーワードはこれからも大事な要素と捉えていることから、現段階にて、まちづくりの大きな方向性は変えるべきものではないと考えています。</p> <p>一方で、当面の間は、コロナ禍前のような観光客数が望めない状況の中で、まさにご意見を頂いたとおり、これらの施設の活用の仕方というのは、「そのときどき現状と照らし合わせ最も効果的な方法を検討し柔軟に」判断していかなければならないと考えています。</p> <p>今回ご意見を頂いた基本構想は、概ね10年間の大きな方向性を示したものであり、具体的な手法の部分までは表現できていませんが、今後、基本計画を策定し、計画を推進していく中で、貴重なご意見として取り入れさせていただきます。</p> <p>②世界水準で個性輝くまちを目指すために</p> <p>政治分野において、女性が活躍できる機会を拡大していくことは重要であると考えています。</p> <p>令和2年12月25日に閣議決定された国の「第5次男女共同参画基本計画」においても、政策・方針決定過程における女性の参画拡大は、重要な政策のひとつに位置づけられており、同計画の具体的な取り組みでは、「地方議会において女性を含めたより幅広い層が議員として参画しやすい環境整備について検討を行う」と明記されています。</p> <p>クォーター制の導入は、女性の政治参画を推進する手段のひとつですが、現時点では、国における環境整備の動向や社会的な</p>

No.	内容	回答欄
	<p>③財源の選択と集中</p> <p>コロナ禍においてリモートワークの飛躍的な広がり、働く場所を選ばない＝住む場所を選べる時代がますます進みそうです。</p> <p>地方において</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然が多い・食べ物がおいしい・・・ところは、地方のどこもそうですからそれ以外に</li> <li>●高度な教育●介護の支援●子育て支援●若者の優遇●環境政策などどれか1つでも世界水準の行政サービスが実現できれば選ばれる都市、魅力あふれる都市、住んでいて誇れるようなワクワクするまちになるのではないのでしょうか。限られた財源なのでレバレッジポイントをとらえて波及の高いところへのテコ入れを計画に盛り込んでいただきたいです。普通の主婦でパートで母の私がおこがましいですが、暮らす人が暮らし続けたいと思うような、幸せに暮らせるような冒頭の部分に書かれたようなまちになるために私なりに考えるいい機会になりました。ひとりひとりがまちについて考えて声を届けることが今の私のまちづくりへのかかわれる一つの方法かなと思い今回初めて意見させていただきました。どうぞよろしく願いいたします。</li> </ul>	<p>議論などを注視していきたいと考えています。</p> <p>③財源の選択と集中</p> <p>長崎市における総合計画は、持続可能な行政運営の指針であり、各分野における諸計画や事業の最上位計画として市政全般を網羅した計画と位置付けています。</p> <p>そのため、総合計画自体では、ご意見のような「選択と集中」する部分を表現しにくいのですが、そういった部分を総合計画の下に位置付ける個別の計画や重点プロジェクトを設定することで補っています。</p> <p>例えば、長崎市にとって喫緊の課題である人口減少対策については、「長崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略」において「若い世代に選ばれる魅力的なまち」を掲げ、その取組みを確実に成果につなげていくための6つの重点プロジェクトを立ち上げています。</p> <p>「選択と集中」による政策・施策の重点化を図り、限られた財源を戦略的、効果的に配分していくことはとても重要であると考えますので、計画を推進していく中で、貴重なご意見として取り入れさせていただきます。</p>
7	<p>拙い文章ではありますが、4つの点について意見を述べさせていただきます。</p> <p>1つ目は、まちづくりの方針とSDGsの関連性についてです。</p>	<p>1 まちづくりの方針とSDGsについて</p>

No.	内容	回答欄
	<p>4の冒頭に、まちづくりの方針にSDGsを関連付けることで、その達成に向けた取り組みを一体的に推進していく、とありますが、それぞれSDGsの目標とどう関連付けているのか、何をどのように進めてSDGsを達成しようとしているのか、結びつきが分かるような説明がなく、理解できませんでした。まちづくりの方針への理解を深める目的で、関連が深いSDGsの目標が並べられており、方針とSDGsの目標を照合してみると関連性を見出せるものもありましたが、中には該当箇所がないと思われるものもありました。例えば、まちづくりの方針C, F, G, Hで提示されている、5「ジェンダー平等を実現しよう」は各方針のどの部分と関連を持つのでしょうか。Fに関しては、結婚、妊娠、出産、育児のサポートという点で納得しましたが、その他の項目ではどのように結び付けられているのか疑問に思います。</p> <p>2つ目は、まちづくりの方向性についてです。長崎市は、日本や世界から見て長崎市がどうあるべきかという視点に傾いてはいないかと感じられました。これも4の冒頭にあった記述ですが、この計画期間における取組みの姿勢や成果が、全国的にも高い評価を得られることを目指して取り組む、とありました。もちろん、外から見ても高い評価が得られることは良いことだと思いますが、市民の評価を得ることが一番大切ではないでし</p>	<p>まちづくりの方針とSDGsの関連性が分かりにくいというご意見を真摯に受け止め、今後の計画策定の過程や総合計画を最終的に冊子にする際には、出来る限り分かりやすく表現できるように整理していきたいと考えています。</p> <p>現在の整理方針では、作成作業中の前期基本計画において、AからHのまちづくりの方針に沿った具体的な施策を設定していく中で、そのそれぞれの施策にもSDGsを関連付けることで、結びつきをより明確にしていこうとしています。</p> <p>なお、具体的にご質問のあった「ジェンダー平等を実現しよう」の関連性につきましては、特にC（経済・仕事）やH（参画と協働）の分野における浸透が遅れていると考えられること、G（学び）の分野において理解を深めていくことが重要であることに着目したものです。</p> <p>また、これらの関連付けについては、今後、具体的な施策とSDGsを関連付ける作業を進めるなかで、随時見直していく予定であることを申し添えます。</p> <p>2 まちづくりの方向性について</p> <p>まちづくりの視点として、常に一番に大事にしなければならないのは、市民のより良い暮らしをつくることだと考えており、貴重なご意見として、あらゆる場面で意識しておきたいと思います。</p> <p>そのうえで、ご意見のあった「全国的にも高い評価を得られることを目指して取り組みます」という部分については、SD</p>

No.	内容	回答欄
	<p>ようか。外部の視線を気にし過ぎることなく、目の前の市民のことを考えてほしいです。</p> <p>3つ目は、現状と分析の根拠についてです。4のまちづくりの方針において現状と課題が分析されていますが、何を根拠に述べられているのか、第四次総合計画の後期計画の取り組みについても踏まえているのか、疑問に思います。その根拠が何かを、事細かく示してほしいというわけではありませんが、文章を読んでいて現実味が感じられませんでした。また、長崎市よかまちづくり基本条例について、1の基本構想策定の趣旨の部分に、制定によって市民等が当事者意識を持ち、参画、協働してまちづくりを進めてきたとありましたが、制定により、何が進められてどう変わったのでしょうか。条例が掲載されているページには、条例施行後の取り組みとして、小学生まちづくりアイデアコンテストの情報しか得られませんでした。条例と協働の取り組みの関連性がよく理解できません。</p> <p>4つ目は、市民の幸福についてです。この基本構想は市民1人ひとりの幸福を実現するために基本的な姿勢や道筋を示すものだ、という記述がありましたが、市が考える、市民の幸福とはどのようなもののでしょうか。市民にどのような幸福を感じてほ</p>	<p>G s への取り組みについて述べたものですが、外部から評価してもらうために取り組むということではなく、しっかりと取り組まなければ評価が得られることはないという認識のもと、SD G s がめざすゴールの達成に向けた取り組みを進めていく姿勢を示したものとご理解いただければと思います。</p> <p>3 現状と分析の根拠について            第五次総合計画基本構想は、第四次総合計画のふりかえりや、大きな視点での現状と課題を分析の上で、お示ししているところですが、その過程が見えにくいことから頂いたご意見と受け止めており、今後、是正に努めていきたいと思ひます。            長崎市よかまちづくり基本条例に掲げる「参画と協働」については、まちづくりのあらゆる場面で必要となる基本姿勢と位置付けており、これまでの取り組みが見えないという趣旨のご意見を真摯に受け止め、しっかりと取り組んでいきたいと思ひます。</p> <p>4 市民の幸福について            市民一人ひとりの価値観は様々であり、「市民の幸福」も一人ひとり異なるものと認識しています。            この基本構想は、長崎市総合計画審議会や、各分野の関係団</p>

No.	内容	回答欄
	<p>しいとお思いですか。3の、めざす2030年の姿がそれにあたるのかもしれませんが、市民が読んでも自分の暮らしをイメージできるようなものではないと感じます。例えば、「産業がもたらす活力と技術の進歩を取り入れ、生活の質が高まっています」については、世の中の変化に応じてまちはこうなるだろう、という予測に思えてしまい、市民にこのような幸福を感じてほしい、そのためにこんなまちにしたい、という意向が感じられませんでした。</p>	<p>体、市議会など、可能な限り様々な立場の方のご意見をお聞きする中で積み上げてきたものです。</p> <p>その中で、市民にとっての幸福や、その実現に近づくためのまちの姿を少しでもイメージしやすいように「めざす2030年の姿」を掲げていますが、それが感じられないというご意見を真摯に受け止め、今後の分かりやすい説明に努めなければならないと考えています。</p>
8	<p>1. 長崎市の現状を具体的に示し、目標との差を明確にしないと政策は出てこない。</p> <p>(例)・P1の「これまでの取り組みを通して・・・基盤が、ハード・ソフト両面において形になりはじめている」について</p> <p>・P5の「これまでも長崎を支えてきた産業が社会経済情勢や価値観の変化を的確にとらえて進化を続けています」について</p> <p>2. SDGsとの関連付けはひとつの手法としてもいいが、これはあくまで手法(考え方)であり、その形に囚われることのないように扱っていただきたい。</p>	<p>1. 第五次総合計画基本構想は、第四次総合計画のふりかえりや、大きな視点での現状と課題を分析の上で、お示ししているところであり、それぞれの施策ごとの現状と課題や具体的な数値目標等については、今後、策定する基本計画の中でお示ししていきたいと考えています。</p> <p>2. 五次総合計画基本構想においては、8つのまちづくりの方針(A～H)にSDGsがめざす17のゴールを関連づけることで、その達成に向けた取組を一体的に推進していくこととしています。</p> <p>SDGsの達成に向けては、まずはそれを意識して取り組むことが必要という認識に基づくものであり、「その形に囚われることのないよう」とのご意見も参考にしながら、今後の計画策定や各施策の推進に取り組んでいきます。</p>

No.	内容	回答欄
	<p>3. 長崎市の現状を示す場合に次のような尺度を使って全国との差を明らかにしておくこと。</p> <p>(例)・ジェンダーギャップ・人口X人当たりの病院数、託児施設、文化施設数、避難場所など我々が生活に必要なものの現状レベルを数値で明らかにする。</p> <p>これら 2030 年までにめざす目標についての現状の数値を明らかにして市民と行政が共有すべき。これらを明らかにして目標を設定することにより「誰一人取り残さない」がすべての領域で出来ているかの検証が必要。</p> <p>4. 長崎市において Society5.0 とは、どのように表現あるいは、設定できるのかを表現して欲しい。</p>	<p>3. 貴重なご意見として受け止め、いただいたご意見も参考とさせていただきますながら、目標の設定や検証の方法も含めた今後の計画策定と各施策の推進に取り組んでいきます。</p> <p>4. Society5.0 は、狩猟社会 (Society 1.0)、農耕社会 (Society 2.0)、工業社会 (Society 3.0)、情報社会 (Society 4.0) に続く、新たな社会を指すもので、サイバー空間 (仮想空間) とフィジカル空間 (現実空間) を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会 (Society) のことです。</p> <p>計画自体に、長崎市における Society5.0 の状態 (設定) そのものを記載する予定はございませんが、AI やロボットなどのテクノロジーで、様々な課題の解決等を行い、より快適で便利な暮らしを実現し、市民の生活の質の向上をめざしていきます。</p> <p>なお、「めざす 2030 年の姿」として、「◆産業がもたらす活力と技術の進歩を取り入れ、生活の質が高まっています」の部分にテクノロジーを活用した質の高い生活について記載してい</p>

No.	内容	回答欄
		ます。
9	<p>私が長崎市民の一人としてこれを読みまず思ったことは、2030年私は長崎市に住んでいないなということです。これを読み、市民と長崎市が協働してまちづくりをするというイメージを描くことが出来ませんでした。長崎市は長崎市民が住民として生活を営む場所です。長崎市が、観光や平和の発信から多くの人に訪問してもらいたい、世界に長崎市の魅力を伝えたいというのは理解できます。でも、それは市民あってこそその活動であるため、第一に市民を考えていることが伝わる構想を作ってくださいたいです。この、第五次総合計画基本構想（素案）に市民のことを想った内容がないというわけではありませんが、8年後市民の生活より外部評価を気にする長崎市になってしまうのではないかと印象を受けました。</p> <p>次に、素案の中に「長崎らしさ」という言葉が何回も書かれています。何を定義にして「長崎らしさ」と書いているのでしょうか。これは、歴史から見る長崎らしさ、夜景の長崎らしさなど多角的に長崎らしさをとらえることが出来ると思います。誰でも長崎らしさと聞いて同じ答えが出るとは思いません。この第5次総合計画基本構想で「長崎らしさ」を全面的に出すのであれば、その定義を市民に共有すべきではないでしょうか。</p> <p>SDG sについて、取り組みや成果が国内で高く評価されることを目標とされているようですが、これを本気で長崎市が SDG s</p>	<p>総合計画は市民等と行政が協働してまちづくりに取り組むための共通の指針として策定を行うもので、「まちの将来像」や「まちづくりの方針」は、市民等と行政が一体となってまちづくりを進めるために、どういう状況を目指しているのか、そのために何をすべきなのかということをお示しするものです。</p> <p>「市民の生活より外部評価を気にする長崎市になってしまうのではないかと印象を受けました」とのご意見をいただきましたが、まちづくりの視点として、常に一番に大事にしなければならないのは、市民のより良い暮らしをつくることだと考えており、いただいたご意見を真摯に受け止め、あらゆる場面で意識しておきたいと思います。</p> <p>「長崎らしさ」をどのように捉えるかということについては、ご意見のとおり、人それぞれ様々な考え方があって良いと思っており、第五次総合計画の中で明確に「長崎らしさ」を定義する予定はございませんが、歴史・文化・景観・自然など長崎の持つ個性を十分に活かしながら、まちづくりを進めていきたいと考えています。</p> <p>五次総合計画基本構想においては、8つのまちづくりの方針にSDG sがめざす17のゴールを関連づけることで、その達</p>

No.	内容	回答欄
	<p>に取り組む目標としているのなら、大変恥ずかしいことであると思います。SDG sに取り組むことは、やらなければならないという義務でもなく、誰かに評価されるものでもなく、当たり前に行うことだと考えます。</p> <p>また、関連が深い SDG s を記載されていますが、これが基本構想に含まれないというのが意味が理解できませんでした。仮に、関連深い SDG s を記載しないとしても、方針と関連深い SDG s の関連性や何をどのようにして目標を達成するのかを書くべきだと思います。まちづくり方針を SDG s と一体的に推進したいのであれば、市民にもその旨を理解してもらうため載せておく必要があると思います。</p> <p>上記では、内容をかいつまんで意見を述べさせていただきました。しかし、どの項目についても、将来像が現状と課題をもとにどのような過程を経て達成されるのかを理解することが難しかったです。目指す 2030 の姿として書いてくださっていますが、そこで具体的に何をするのか、何を根拠としているのだら</p>	<p>成に向けた取組みを一体的に推進していくこととしています。</p> <p>ご意見のとおり、SDG s に取り組むことは「当たり前に行う」べきことと思いますが、2030 年までの目標達成をめざすにあたっては、それを強く意識して取組みを進める必要があると考えています。</p> <p>また、「全国的にも高い評価を得られることを目指して取り組めます」という部分については、外部から評価してもらうために取り組むということではなく、しっかりと取り組まなければ評価が得られることはないという認識のもと、SDG s がめざすゴールの達成に向けた取組みを進めていく姿勢を示したものとご理解いただければと思います。</p> <p>なお、関連が深い SDG s が「本構想に含まれない」ということの意味について補足しますと「市議会の議決により定める基本構想の一部としては位置付けない」ということです。今後、前期基本計画を策定する中で、適宜、修正等を行い、最終的に基本構想と前期基本計画が成案となり、市民の皆さんにお示しする際には、今回ご確認を頂いたような形で、合わせて記載する予定としています。</p> <p>基本構想においては、めざすまちの姿を少しでも具体的にイメージできるよう「めざす 2030 年の姿」を描き、8 つのまちづくりの方針（A～H）を掲げて、その姿の実現を目指すこととしています。</p> <p>「めざす 2030 年の姿」の 4 つのテーマと「まちづくり方針」</p>

No.	内容	回答欄
	<p>う、今までもできていないのに本当に達成できるのかという疑問がいくつも出てきました。後の、まちづくり方針で記載されていればこちらでも理解できたのですが、曖昧な表現やちぐはぐな記載もあり混乱している状況です。2030年の姿とまちづくりの方針のつながりがもう少し明確に記載されているとこちらとしてもありがたいです。</p>	<p>との関係は、4つそれぞれのテーマにいくつかの決まった「まちづくり方針」が関連づけられているのではなく、4つのテーマ（2030年の姿）の実現に向けて、全ての「まちづくり方針」でその姿を目指していくイメージとなります。</p> <p>例えば、テーマ4つめの「平和な世界、持続可能な世界の実現に貢献しています」は、まちづくりの方針Bの「私たちは平和を愛し、平和の文化を育むまちをめざします」だけがその姿をめざすのではなく、A～Hの全てが関わりを持って目指すこととしています。</p> <p>そしてまちづくりの方針に沿った各施策などについては、今後策定する前期基本計画の中で、成果指標としての具体的な数値目標とともに、設定を行っていくこととしております。</p> <p>いただいたご意見を真摯に受け止め、市民の皆さんへのわかりやすい説明に努めてまいります。</p>
10	<p>長崎市第五次総合計画基本構想(素案)にかかる意見を提出します。</p> <p>今後の10年はもちろん、その先の長崎市を決める大事な計画の基本構想だと認識しています。そのいう認識の下で拝見すると、一市民として、また、地域経済や地域政策を専門とする者として、長崎市の最上位計画の方向性を定める基本構想としてこの素案を認めるわけにはいきません。すべて書き換えて、もう一度パブリック・コメントにかけるべきだと考えます。申し訳ありませんが、限られた時間の中で書き殴った意見となっており、乱暴な言葉遣いもあるかもしれませんが、長崎市民の皆</p>	

No.	内容	回答欄
	<p>さんの将来を考え、以下の内容をお伝えする次第です。参考に供していただければ幸いです。よろしくお願いいたします。</p> <p>1. 素案全体にかかる意見</p> <p>素案全体、今後の計画づくりの方向性を定める市民の幸福、都市像や基本姿勢について以下の通りコメントします。</p> <p>(1)めざす都市像について</p> <p>世界都市と人間都市という総合計画を貫くコンセプトを堅持することは、長崎市にとって望ましい方向性であると考えます。ただし、世界都市や人間都市というコンセプトが市民、長崎市の職員などの間で共有されなかったことが、様々な問題を招いてきたのも事実です。たとえば、MICE の振興においては、先にパブリック・コメントを実施した長崎市観光 MICE 戦略(素案)に、「交流の意義は人口減少で失われた消費を観光客等に補ってもらうため」という世界都市や人間都市としての品格を貶める表現を何のためらいもなく掲載しています。また、ここ数年間に数度にわたった住民投票請求が行われたことは、長崎市役所および市民のいずれもが、素案に記載された「……他者を思いやり支え合いながら」という人間都市を目指す方向性を軽視した結果でしょう。このように、近年の長崎市内で多数散見される長崎市 vs 長崎市民という構図は、世界都市や人間都市というコンセプトを具体的に共有できなかったことに起因すると考えられます。たとえば、世界都市について、「平和の尊さを発信</p>	<p>1. 素案全体にかかる意見</p> <p>(1)めざす都市像について</p> <p>「世界都市」「人間都市」というめざす都市像については、本文中にも記載しているとおり、市民ニーズや社会の変化に応じ、より良い状態を求めて進化し続ける都市の姿であり、それをめざす道のりは常に道半ばであると整理しています。</p> <p>そういった大きな方向性を示すものであるために、今回の基本構想策定の過程においても、具体的にどういったところを目指すのかわかりにくいというご意見もありました。</p> <p>「めざす 2030 年の姿」は、そういったご意見を受け、めざすまちの姿を少しでも具体的にイメージできるように、初の試みとして描いたものです。</p> <p>いただいたご意見については真摯に受け止め、「世界都市」「人間都市」という都市像を市民の皆さんとしっかり共有しながら、まちづくりを進めていけるよう、努力していきたいと考えています。</p>

No.	内容	回答欄
	<p>するという従来からの取り組みに加えて、私たちの世代、ひいては将来世代に渡って災いをもたらす核兵器から通常兵器に至るあらゆる兵器の開発、製造や保持に決別する地域づくりを進めるとともに、世界平和の実現にかかるあらゆる国際会議を本市で開催することによって、平和の枠組みを長崎で創り、世界各国を巻き混みながら世界平和を実現する都市となる」くらいの記述ができませんでしょうか。北極星は他の星に比べて輝星としてブレることなく同じ場所で輝くからこそ意味があるのです。長崎市の世界都市や人間都市が、フワフワした言葉としてではなく、市民が共有する理念や信念やミッション等となるためにも、もう一步掘り下げてください。</p> <p>(2)めざす都市像について</p> <p>「幸福に生きるために大事なことは何か」は本質的な価値ではありません。本質的な価値というなら「幸福とは何か」です。世界都市や人間都市、そこでの暮らしが幸福であるとするなら、私たち長崎市民が到達したい世界都市や人間都市で実現する幸福の形を示すべきでしょう。たとえば、所得が高くなる(目的)ことが幸福だから、市民の所得を高める政策(手段)が求められるのであって、何が幸福かという目的が決まらないのに、手段が決まることはありません。長崎市民が享受する豊かさや幸福(well-being)とは何なのか、世界都市や人間都市のコンセプトに合わせて徹底的に議論した結果を記述してください。なお、詳細な記述を求めているわけではありません。具体的なイメー</p>	<p>回答欄</p> <p>(2)めざす都市像について</p> <p>『「幸福に生きるために大事なことは何か」は本質的な価値ではありません。本質的な価値というなら「幸福とは何か」です。』というご意見の趣旨を踏まえ、該当箇所を次のように変更させていただきます。</p> <p><b>【変更】</b></p> <p><b>「幸福に生きるために大事なことは何か」という問いから導かれる、より本質的な価値</b></p> <p>また、後段のご意見についても、貴重なご意見として受け止め、今後のまちづくりの参考とさせていただきます。</p>

No.	内容	回答欄
	<p>ジがたくさんあって、それらを抽象化することに異存はありません。ただ、めざす都市像や市民の幸福は、総合計画の末端にまで通貫しなければなりません。幸せを掘り下げてイメージすれば、どんな人材育成が求められているのか、どんな仕事が良いのか、どんなまちが良いのか・・・が決まってきます。たとえば、いま取り組まれている「Startup City Nagasaki」なんてキャッチ、スタジアムシティなんてものは、幸せの定義次第で間違っていることだと認識されるかもしれません。こんな意見を述べると、いろんな価値を尊重するのが人間都市なのでという反論があるかもしれませんが、些細はともかく、長崎がめざす大きな方向性に反する人には無理に住んでもらう必要がないと思いますので、そろそろ「長崎とは何者か」について私たちがなりの答えを見いだしませんか？</p> <p>(3)まちづくりの基本姿勢について</p> <p>本年 5 月に市長に提出された市民力推進委員会の報告書には、職員向け全数調査において、「つながりと創造で新しい長崎へ」という基本姿勢を「よく知っている」と回答した職員は 8.7%であったことが記載されています。また、本年 9 月に市長に提出された「令和 2 年度長崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価に関する報告書」の p.9 には、施策や事業が評価されないまま継続されていること、そもそも、市民の想いや声に寄り添った行動や言動などの対応に努めて欲しいことなどが記されています。そして、p.4 以降、まちづくりの方針 H に至るまで、</p>	<p>(3)まちづくりの基本姿勢について</p> <p>第四次総合計画について「庁内でも審議会でも何の振り返りも行われた形跡が見えない」というご意見について、第四次総合計画の評価については、長崎市総合計画審議会において毎年の進捗評価を行い、その結果はホームページにも掲載しているほか、令和 2 年度には総括評価を実施し、その内容は長崎市議会にも報告しています。</p> <p>今回ご意見をいただいた基本構想（素案）は、その結果をふまえたうえで、総合計画審議会や市議会等でも種々ご意見をいただき、それらを反映したものとしてお示ししておりますが、</p>

No.	内容	回答欄
	<p>つながり、協働などのキーワードは散見されますが、現状と課題にて振り返られることすらない状態となっています。さらにいえば、素案を検討するにあたり、このような基本姿勢の現状や課題について総合計画審議会ではどのように議論されているのかを確認したく、長崎市のホームページを渉猟してみました。議事録を発見することができなかつたため、委員の皆さんからどんな意見をいただいていた素案なのかを知ることができませんでした。第4次の総合計画期間 10年間を経ても、十分に理解している職員が1割にも達せず、市民に寄り添う姿勢が足りないのではないかと指摘されている現状を踏まえるとともに、庁内でも審議会でも何の振り返りも行われた形跡が見えない状態で「つながりと創造で新しい長崎へ」基本姿勢として据えることには反対です。なお、先述した委員会や審議会が報告した内容を、理由もなく捨象する行為は、まさしく庁内における横のつながりの欠如を象徴するものであり、それらの会議で長崎市のために心を砕く市民とのつながりをも拒む行為であり看過できません。</p>	<p>その過程が見えにくいことから頂いたご意見と受け止めており、今後、是正に努めていきたいと思っております。</p> <p>※議事録については、1月15日に長崎市ホームページに掲載いたしました。掲載が遅れておりましたこととお詫びいたします。</p> <p>なお、「つながりと創造で新しい長崎へ」というまちづくりの基本姿勢が職員に十分に認識されていないということについては、ご意見を真摯に受け止め、普段から「自分たちの業務は総合計画の推進にどの様に関わり、貢献しているのか」「組織や各職員のミッションは何か」ということを確認しながら業務にあたることなどを通して、自らの業務と総合計画との関連性をはじめ、目指すべき成果、業務に取り組む姿勢などに対する意識付けをしっかりと行っていかなければならないと考えています。</p> <p>併せて、総合計画の内容理解に関しては、新規採用職員研修や階層別研修においてこれまでも行ってきたところですが、今後は、第五次総合計画の推進に係る全庁的な職員への研修や協働推進にかかる職員研修、職場でのOJTなどの中でも折に触れて実施していくとともに、研修の効果がさらに高まるように工夫を重ねていきます。</p> <p>また、「施策や事業が評価されないまま継続されている」ということについても、PDCAのサイクルを回していく中で、いただいた評価結果やご意見を次につなげていくことを、しっかりと意識して取り組んでいきたいと思っております。</p>

No.	内容	回答欄
	<p>(4)めざす 2030 年の姿について これは 2030 年に達成する姿にしては欲張りすぎではありませんか。</p> <p>(5) めざす 2030 年の姿とまちづくりの方針の関係について 「めざす 2030 年の姿」と「めざす 2030 年の姿に近づくためのまちづくりの方針」は、どのような関係にあるのでしょうか。姿は 4 つ、方針は 8 つ、わかりにくいと思います。</p> <p>2. 素案の部分にかかる意見 1 が修正されなければ素案の部分に意見を述べても意味がないかもしれませんが、気づいたところについてコメントします。</p>	<p>(4)めざす 2030 年の姿について 「2030 年に達成する姿にしては欲張りすぎ」とのご意見について、「めざす 2030 年の姿」は、あえて容易には到達できない高めの目標設定としての「姿」を描いています。 しっかりと、その姿に到達できるよう各施策を進めていきます。</p> <p>(5) めざす 2030 年の姿とまちづくりの方針の関係について 「めざす 2030 年の姿」の 4 つのテーマと「まちづくり方針」との関係は、4 つそれぞれのテーマにいくつかの決まった「まちづくり方針」が関連づけられているのではなく、4 つのテーマ（2030 年の姿）の実現に向けて、全ての「まちづくり方針」でその姿を目指していくイメージとなります。 例えば、テーマ 4 つめの「平和な世界、持続可能な世界の実現に貢献しています」は、まちづくりの方針 B の「私たちは平和を愛し、平和の文化を育むまちをめざします」だけがその姿をめざすのではなく、A～H の全てが関わりを持って目指すこととしております。 「わかりにくい」というご意見については、真摯に受け止め、今後、丁寧な説明に努めてまいります。</p> <p>2. 素案の部分にかかる意見</p>

No.	内容	回答欄
	<p>(1)めざす 2030 年の姿について</p> <p>1 のコメントにも関わりますが、p.4 からの具体的イメージは、表面的に見えることをなぞっているだけで、全く具体的ではありません。長崎という言葉を外せば、どこでも使える話です。ここは、コンパクトシティで市民がどのように暮らしているのか、コミュニティでは皆がどんな支え合いの輪を形成しているのかなどを、具体的に、一部には事例も含めて表現する必要がありますと考えます。分類も理解できません。「つながって・・・」は目的なのか手段なのか。もし手段なら「生活の質が・・・」以下の◆と同列にすることには違和感があります。もし目的なら、目的らしく書いた方が良いと思います。また、pp.4-6 について、文字面通り受け取れば、「みんなでつながって・・・」は暮らしやすさつくる、「産業がもたらす・・・」は生活の質を高めるということになりますが、ほんとでしょうか。スタジアムができてサッカーが観戦できると生活の質が高まるのでしょうか。つながることが生活の質を高めるのではないのでしょうか。子どもの話はここでいう生活の質ですか。そして、1-(1)~(3) がイメージできないと書けません。それらをイメージした上で、すべて整理して、書き直してみてもうか。</p>	<p>(1)めざす 2030 年の姿について</p> <p>基本構想においては、めざすまちの姿を少しでも具体的にイメージできるよう「めざす 2030 年の姿」を描き、A~Hの8つのまちづくりの方針を掲げて、その姿の実現を目指すこととしています。</p> <p>よって、「めざす 2030 年の姿」自体は、具体的でないと感じになられるかもしれませんが、それを実現するための各施策などについては、今後策定する前期基本計画の中で、成果指標としての具体的な数値目標とともに、設定を行っていくこととしておりますので、ご理解いただければと思います。</p> <p>また、◆で示した4つのテーマの分類が理解できないというご意見について、まず、これらは目的や手段ではなく、一つの到達点としての 2030 年の状態を表現しようとしたものです。</p> <p>それぞれのテーマに含まれる内容について、その分類・整理の仕方が様々であることは、ご意見のとおりであると思います。その中で、この「めざす 2030 年の姿」は、まちづくりの各分野に関する内容を網羅しつつ、一定の纏まりを持ったストーリーとして文章を読んでいただけるように工夫しています。</p> <p>そうすることで、めざすまちの姿を少しでも具体的にイメージできるようにするという目的と併せて、少しでも多くの市民の方に総合計画への興味を持っていただくための入り口とすることも意識したものとご理解いただければと思います。</p> <p>いずれにしましても、ご意見を真摯に受け止め、今後の分かりやすい説明に努めてまいります。</p>

No.	内容	回答欄
	<p>(2)まちづくりの方針 A について</p> <p>現状と課題について、たとえば「長崎のまちが持つ個性の継承・活用に向けた取り組みは一定進み・・・」は長崎市の自分によった評価でしょう。江崎べっこう店について『「市の象徴的建物がなくなるのは残念」としながらも、個人の財産処分について「行政として立ち入ることはできない』(長崎新聞 2020年6月5日)と述べ、理由は何であっても、象徴的な建物すら護ることのできなかつた長崎市政に問題はありませんか。また、出島メッセ長崎やスタジアムシティの開業によって多大な影響を受けることがわかっている市内商業について、それらの将来をどう考えるのかは課題ではないですか。コロナ禍前の観光客が望めないから量から質ではなくて、そもそも長崎の資源を十分に堪能して喜んでもらうためには、量ではなく質を追わなければならないということではないですか。2006 アクションプランの時からわかっていたのに目をつぶってきたけど、もう無視できないということではないですか。それと、長崎市がとりあげなければならないシビックプライドとは、愛情や誇りも含みますが、自ら行動するという要素を備えるものではないですか。もちろん。まだ長崎 Lovers に固執しているなら、素案通りで良いのかもしれませんが。</p>	<p>(2)まちづくりの方針 A について</p> <p>ご意見にあった「江崎べっ甲店」については、国の登録文化財に登録され、長崎市の景観重要建造物にも指定されていましたが、登録有形文化財は、歴史的建造物を文化財として登録し、届出制という緩やかな規制を通じて保存を図り、地域の資産として活用を促すために制度化されたもので、その解体については所有者の意向で行うことができます。</p> <p>一方、景観重要建造物は、外観に地域の景観の特徴を有し、良好な景観形成を推進する上で重要な建造物を指定する制度です。</p> <p>今回、所有者の指定解除の申し出を受け、専門家で組織する長崎市景観審議会にて審議した結果、所有者による建物の維持や、現在の場所での市や第三者による活用を含めた建物存続が困難であったこと、市が建物を譲り受けたとしても移設先の制約等もあり、外観保全が困難であったことから、指定解除を行ったところです。</p> <p>民間所有の歴史的建造物に対して行政が行う支援には限界がありますが、マリア園や料亭春海のように、別用途への転用につなげ、存続を図った事例もありますので、今後も所有者等の意向を踏まえながら、適切に対応していくこととしています。</p> <p>また「出島メッセ長崎やスタジアムシティの開業によって多大な影響を受けることがわかっている市内商業について、それらの将来をどう考えるのか」ということについて、地域商店街</p>

No.	内容	回答欄
		<p>をはじめとした市内商業は、買い物の場としても、また、地域コミュニティの場としても、その機能を維持していくことが必要と考えており、地域の皆さんのご意見もうかがいながら、新たな訪問客の消費需要の取込みに対して支援を行うことなどで、市内商業の振興につなげていきたいと考えています。</p> <p>「コロナ禍前の観光客が望めないから量から質ではない」というご意見については、長崎市においても、コロナウイルスの感染拡大により、「量」から「質」へのシフトが「これまで以上に」重要な視点になっているとの認識ですので、まちづくりの方針Aの該当箇所について次のように変更いたします。</p> <p><b>【変更】</b></p> <p>◇人口減少や、旅行のトレンドが団体から個人・小グループの旅行へと変わってきていることなどを背景に、観光のあり方は変化しており、以前は観光客数などの「量」を追い求めてきたが、現在は観光消費額や満足度などの「質」を重視し、官民連携のもと高付加価値のサービスの提供などに取り組んでいる。</p> <p>◇当面の間、コロナ禍前のような観光客数が望めない状況にあっては、これまで以上に「量」より「質」を重視する必要が生じている</p> <p>「シビックプライドとは、愛情や誇りも含むが、自ら行動するという要素を備えるものではないか」というご意見について、長崎市が掲げるシビックプライドの醸成とは、市民が長崎</p>

No.	内容	回答欄
	<p>(3)まちづくりの方針BからGまで 長崎市の担当課が興味のあることだけをつまみ食いした感があります。再度整理、検討してください。</p> <p>(4)まちづくりの方針Hについて 先述したように、長崎市よかまちづくり基本条例を制定したものの、職員のまちづくりの当事者、市民と協働して課題解決に取り組む姿勢は、全般的に言えば全く醸成されていないとも考えられます。第7条と第8条の責務を果たせていない可能性</p>	<p>市に対して愛着や誇りを持ってもらうことのみに留まらず、実際に行動を起こし、まちづくりに主体的に関わっていただくことまでを目指していますので、シビックプライドに係る注釈は、次のとおり修文するとともに、基本計画の策定に際しても、その点をしっかり踏まえて検討を進めます。</p> <p><b>【変更】</b> <b>シビックプライド</b> 自分たちが住むまちに対して愛着や誇りを持ち、まちづくりに当事者として関わろうとする気持ち。</p> <p>(3)まちづくりの方針BからGまで 「まちづくりの方針」については、総合計画審議会委員に参加いただいたワークショップで出た意見を原案として、その後も審議会、市議会等でのご意見等を踏まえた上で作成したもので、市担当課のみの意見を抽出したものではありませんので、ご理解いただきたいと思います。</p> <p>(4)まちづくりの方針Hについて まちづくりの方針Hは、「参画と協働によるまちづくりと確かな行政経営を進めるまち」をめざすこととしています。 ご意見をいただきました「まちづくりの当事者、市民と協働して課題解決に取り組む姿勢」については、主な取り組み方針</p>

No.	内容	回答欄
	<p>があることに触れなければならないのではないのでしょうか。行政経営について、自主財源の確保だけに触れて、しかもその手段が債権管理による未収金の適正化だけで良いのでしょうか。</p> <p>ここには、今年の2月に策定された長崎市行政経営プランを踏まえて記述すべきではないのでしょうか。もちろん、このプランの中身が乏しいので、もう一度、行政を経営するという観点で一から検討すべきだと考えます。</p> <p>その他、Hに含まれる内容についても、全部見直してください。</p> <p>最後に、方針のHは横軸です。A~Gに横串を指すように設定してください。</p> <p>以上</p>	<p>の中で、「◇長崎市よかまちづくり基本条例に定める「情報の共有」「参画」「協働」の基本原則に基づき、自治会をはじめとする地域の様々な団体や地域コミュニティ連絡協議会、市民活動団体、市が相互に連携し、多様な地域課題の解決につながるよう、時代の変化に合わせたまちづくりに参加しやすい仕組みづくりを引き続き進めていきます。」としており、この取り組み方針に記載のとおり、市民と協働しながらまちづくりを進めていきたいと考えています。</p> <p>行政経営については、財政面に限らず、業務の効率化や人材育成などを含めた行政運営の視点が必要と考えており、ご意見の趣旨を踏まえ、今後、前期基本計画を策定していく中で、具体的な記載内容を検討していきたいと思えます。</p>